オンラインでの専門研修の取組・工夫について

総務部研修情報課研修支援室
堀江　輝

令和3年度特別支援教育専門研修
実施状況

- 第一期（5/10～7/9）
  発達障害・情緒障害・言語障害教育コース
  ＊全期間オンラインで実施済

- 第二期（9/8～11/12）
  知的障害教育コース
  ＊全期間オンラインで実施中

- 第三期（1/11～3/16）
  視覚障害・聴覚障害・肢体不自由・病弱教育コース
  ＊新型コロナウイルス感染症の状況により実施方法検討

専門研修の取組①
事前の環境整備

・マニュアルの作成、配布
「オンライン受講案内及びZoom接続テストの実施について」
—Zoom会場への入室先、必要な機器、操作方法

「Googleドライブ利用マニュアル」
—研修員同士のファイル共有の仕方

・「特設ページ」の開設
—講義資料の掲載、連絡事項の記載、電子図書サービスの案内等

・講師対応
—接続テスト、当日事前のZoom上の打ち合わせ（必要に応じて）

・所内体制の整備
—研修用の静かな環境の確保（部屋及びパソコンの固定）
—複数の通信手段の確保（有線と無線ルータ）
—職員の配置（接続状況確認、研修員・講師対応、出席確認）

専門研修の取組②
オンラインストレージの活用

グループ協議や資料共有のため、ISMAP認証を受けている「**Googleドライブ**」活用。
※ISMAP認証：政府が求めるセキュリティ要件を満たしているクラウドサービスであることの認証。ISMAP認証を受けている無料オンラインストレージは他に、OneDrive（Microsoft）がある。

①運営用Googleアカウントの取得
研究所が所有するGoogleアカウントのドライブに、各班ごとのフォルダを設置。
（第二期においては全体共有のフォルダも設置）

②アクセス制限の実施
研修員がGoogleアカウントを有している場合に、
班ごとのアクセス制限を実施

＜出てきた課題と対応策＞
〇Googleへのアクセスが禁じられている自治体の存在
→メーリングリストを活用して情報共有
〇研修員が各々アカウントを取得しなければならない
→リンクを知っている者は誰でもアクセスできるよう
設定（個人情報を含まないファイルを共有するよう周知）

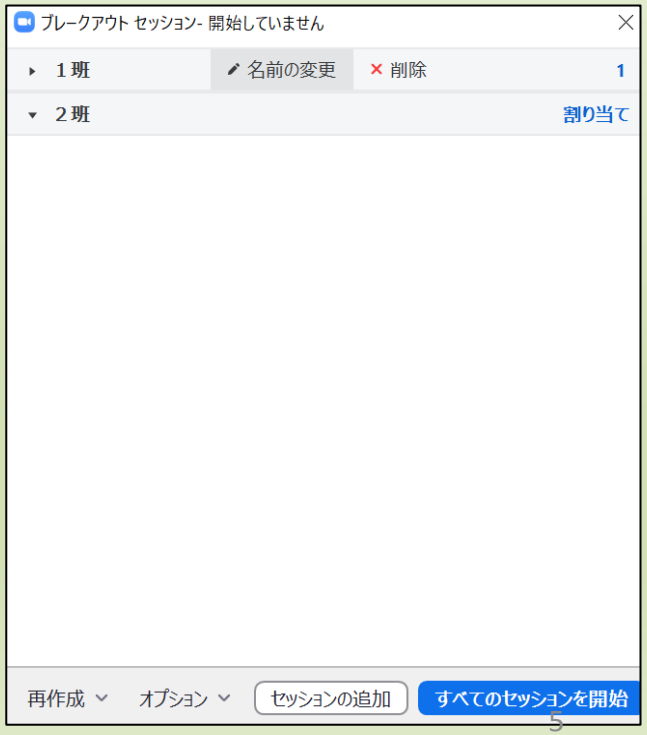
専門研修の取組③
Zoomの活用

「**通信の安定化**」「**身体的負担の軽減**」「**心理的負担の軽減**」への様々な工夫の実施

〇研修前
・研修員のオンライン環境の調査、接続テストの実施
　→当日の通信トラブルの軽減（**通信の安定化**）

〇講義中
1．休憩の積極的なアナウンス
　1時間ごとに10分～15分、ほか適宜
　→目などの疲労を少なくする（**身体的負担の軽減**）
2．コミュニケーションの活性化
　―チャット機能を用いた質疑応答【講師⇔研修員】
　―ブレイクアウトルームごとの協議【研修員⇔研修員】
　→相互に受講する環境づくり（**心理的負担の軽減**）

〇講義後
・コミュニケーションのさらなる活性化
　―講義後のZoom研修会場の開放
　→研修員同士の交流を促進（**心理的負担の軽減**）



オンライン研修を実施して

（第一期専門研修（5/10～7/9）研修員アンケートより）

○**通信の安定化**について

研修期間全体を通じて良好であった	50．0%
時々良好でなかった	50．0%
良好でなかった	0．0%

↓

<u>オンライン操作に習熟した職員の配置と質問対応</u>

研修員や所属機関の協力を受けながら、影響を少なくする。

○**身体的負担**について

よくあった	43．7%
時々あった	46．9%
あまりなかった	9．4%
感じたことはなかった	0．0%

- 休憩は３時間の中で２回は最低でもあるとすごく嬉しかった。

↓

<u>講師から休憩等のアナウンスを積極的に実施</u>

オンライン研修を実施して

（第一期専門研修（5/10～7/9）研修員アンケートより）

○**心理的負担**について

よくあった	１２．５％
時々あった	５１．６％
あまりなかった	２９．７％
感じたことはなかった	６．２％

- 研修期間後半、ブレイクアウトルームを開放してもらえたのが、本当に良かった。気持ちが楽になった。
- 演習を多めにとっていただけると、さらに全国との先生方との交流の中で考えが広がったり深まったりできてよかったと思う。

↓

講義中及び講義後に相互に話し合う場を設置

〇講義内容面

- 講義内容は（オンラインでも）十分に理解でき、有意義であったが、実際に訪問することで学校の雰囲気、生徒の様子などを体験してみたいと思った。
- 教材は直接手にとって見たい、教材作りも実際にやってみたい。

↓

実地研修や教材・教具を扱う講義の進め方の工夫

オンライン研修を実施して

（第一期専門研修（5/10～7/9）研修員アンケートより）

○事前学習を含め、「講義、演習、研究協議、実地研修、課題研究等」の研修内容で構成されていることについて、指導者養成の研修として適切か。

とても適切である	73．4%
適切である	26．6%
どちらかといえば適切ではない	0．0%
適切ではない	0．0%

○特定のテーマのもとで受講者が主体的に協議を進める研究協議は、指導者養成の研修として有意義であると思うか。

とても有意義である	79．7%
有意義である	18．7%
どちらかといえば有意義ではない	1．6%
有意義ではなかった	0．0%

オンライン研修を実施して

（第一期専門研修（5/10～7/9）研修員アンケートより）

○自己目標カードに記載した目標について、どの程度達成できたか。

十分に達成できたと思う	２１．９％
達成できたと思う	７６．５％
どちらかといえば達成できなかったと思う	１．６％
全く達成できなかったと思う	０．０％

○オンライン研修その他研修全般について

- 実際に研究所に行けなくて残念な反面、リモートで、普段の生活のリズムや生活環境を変えず（移動なく）取り組めたのは大きなメリットであった。
- コロナが落ち着いても、オンラインと実際に研究所に来るのとバランスよく行うのがよいのではないか。

→**今年度これまで専門研修を実施する中で、オンライン研修の可能性が広がった反面、集合して対面で行う研修の意義について再確認できたところである。新型コロナウイルス感染症の状況に応じ、集合・宿泊型研修とオンライン研修とのベストミックスについて検討し、専門研修をより充実した研修としていきたい。**